

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 文理融合の教育課程を編成し、全ての教科で生徒の総合知を醸成する探究的かつ教科横断的な学びを充実させる。 課題研究活動や体験講座を中心に、科学的思考力や多面的多角的な思考力、優れた洞察力・判断力や表現力を育成する。 	<ol style="list-style-type: none"> 文系理系にとらわれない総合知を身に付けるために、教科横断的な内容を取り入れた組織的な授業改善を目指す。 課題研究活動を軸に、理数探究基礎や総合的な探究の時間を組み立て、生徒にクリティカルシンキングを基盤とした、「総合知」を活用できる力を育成する指導法を組織的に研究し、来年度のSSH認定を目指す。 	<ol style="list-style-type: none"> 教員間の相互の学び合いを通して授業力を高めるとともに、授業改善策の検討を行い、授業改善に向けた工夫を共有する機会を設定する。 先進的な科学分野に触れ、社会課題を多面的に捉える力を育成するため外部と連携した取組を進めるとともに、課題研究において、生徒の科学的思考がより深まる指導法について研究し、共有を図る。また、グローバル教育の活動を通じ、生徒の多面的多角的な視点と思考を育成する。 	<ol style="list-style-type: none"> 教員間で他者の授業を見学する期間を設けて、期間中に少なくとも1回は授業を見学し、改善に向けた工夫を共有する場を設定する。 外部と連携した取組みが3回以上実施できたか。 <ul style="list-style-type: none"> 課題研究に係る教員研修会や指導研究会を年間3回以上実施できたか。 姉妹校交流や海外研修旅行を有意義な取組みとして実行し、その成果を共有できたか。 					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 他者を思いやることのできる人間性、主体的な態度を育成する。 学校行事、部活動と学習のバランスの取れた学校生活の支援体制を充実させる。 人権を尊重しつつ、自らの知と徳を培い生きる力をはぐくむ。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校行事に対して生徒が主体的に立案・実施・検証することによって、実践性・自主性・協調性を養い自己肯定感を高められる場面を創出する工夫をする。 自他の生命と人権の尊さを認識し、それに伴う倫理と知識を育む指導を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒が自己の役割を認識し、創造性を伸ばす取組ができるよう、生徒会執行部の活動、学校行事の運営、部活動における継続的な支援を行う。 教育相談体制を整備し、生徒の情報を職員全体で共有し、適切な指導・支援を実践する。必要に応じて外部とも連携をとる。 登下校も含めた学校生活のトラブル、SNS関連等のトラブルに対して適切に対応する。 	<ol style="list-style-type: none"> 事後アンケートにおいて、生徒の主体性や創造性に関して肯定的に回答した生徒が3分の2を超えたか。 <ul style="list-style-type: none"> 行事の計画・実施・振り返りを通して、計画的かつ継続的な支援をすることができたか。 SC・SSWや外部などの連携も考慮し、会議(学年・コア・ケースなど)等で具体的な支援策を立て、実践することができたか。 <ul style="list-style-type: none"> トラブルや苦情に対し、改善に向けて行動できたか。 					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)		
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりのキャリア形成に則した支援体制を整備する。 難関国公立大学、難関私立大学への合格者数を増加させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 新課程入試となる3年生に向けた新たな情報を大学入試研究会等で収集し、職員・生徒・保護者に遺漏なく伝える。また大学に関する情報に加え職業観の醸成にも努める。 一般選抜で大学進学をする者が果敢に挑戦出来るよう、進路指導を行う。また学校推薦型選抜や総合型選抜を活用する生徒保護者共に適切に情報提供をする。 	<ol style="list-style-type: none"> 職員対象に新課程入試となる共通テストの説明会を実施する。大学入試研究会への参加を職員にも周知し参加を呼び掛ける。 卒業生のうち社会人として活躍している方のお話を『学習・キャリアワークブック』に掲載する。 保護者対象の説明会や生徒対象の進路集会を実施し、情報を周知する。 「第一志望を貫く」指導を組織的に行い、学年会でも複数回説明し方針を徹底する。 	<ol style="list-style-type: none"> 職員対象の説明会を複数回実施できたか。進路指導資料を作成し、全職員に提示できたか。 社会人の原稿を『学習・キャリアワークブック』に複数掲載できたか。 多様な情報を指導に生かすことで、スーパーグローバル大学(トップ型)への現役進学率が前年を超えたか。 						
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 関連する諸機関、団体との連携を進め、協働に取り組むこととおして、地域に信頼される学校づくりを行う。 	<ol style="list-style-type: none"> PTAや藤沢支援学校分教室との連携を図り、学校行事において交流を図るだけでなく、相互の教育活動が連携的で互恵的となるような教育活動を推進する。 学校外の機関・団体等との連携を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> PTAや分教室と日頃から情報交換を行い、本校生徒との交流・理解が深まり互いに良い関係を築くことができるよう機会を作る。 生徒が地域等学校外の機関に協力したり、学校外の機関等の力を本校の教育に生かす機会を設ける。 	<ol style="list-style-type: none"> PTA活動との連携を密にし、生徒の主体的な地域貢献活動が昨年より増えたか。 分教室との交流を活性化することができたか。 生徒が地域等に協力するとともに、自分たちの学習成果を知ってもらう機会を設けることができたか。 						
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 校内組織をより活性化し、全職員の情報共有や運営参画を進める。 施設・設備の維持や管理を適切に行い、生徒の安全と教育成果の拡充を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 職場の目標や課題を全職員で適切に情報共有し、個々の役割を理解し、主体的・協働的に業務に参画する。 生徒・職員が災害時に適切な判断と行動ができる、災害に対する意識の高い学校づくりを行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 職員間の円滑な情報共有、業務の生産性の向上、働き方改革の推進のため、ICT機器を効果的に活用する。 実践的な避難訓練、防災訓練、DIG訓練等を実施し全職員・生徒の防災に対する実践知を高める指導に取り組む。 	<ol style="list-style-type: none"> ICT機器の効果的な利活用により、業務を適切に効率化し、職員の時間外勤務を減らすことができたか。 生徒・職員が具体的な災害等に対する意識を高める訓練等を実施できたか。 						